

国際儀礼の基本講座 ～その4～

平成22年4月
地方連携推進室 杉田明子

Q 外国賓客に対する贈り物選びにおいてはどのような点に気をつければいいのでしょうか？

A 【ワンポイント・アドバイス】

外国の賓客に贈る品物として最も代表的なものは、国の代表的な工芸品です。その他の例としては、相手の趣味に関係する品や、両国の友好関係にちなんだ品など話題性のあるものも喜ばれます。

【解説】

1. 贈り物選びの代表例

政府間でよく見受けられる外国からの贈り物には、各国の代表的な工芸品（陶磁器、ガラス製品、銀製品、タペストリーなど）、その国の技術を生かした実用品（テーブルクロス、ハンドバッグ、ショールなど）、その国の自然や文化遺産などを収めた写真集などが代表例としてあげられます。

また日本から外国への贈り物には、同様に日本の代表的な工芸品（漆器、陶磁器、ガラス製品、真珠のアクセサリなど）が代表的ですが、それ以外では、多くの国で人気のある日本の家電製品やハイテク製品が贈られることもあります。

また、相手の趣味にちなんだ品として、ご夫妻でテニスを楽しまれるという大統領に、ペアのテニスウェアをプレゼントした例があります。ユニークな贈り物としては、寒い国から来られた大統領が日本滞在中に関心をもったことがきっかけで、使い捨てカイロ1箱分をプレゼントした例もあります。

2. 贈り物の留意点

外国への贈り物には、いくつかの点に注意することも大切です。

まず、贈る相手に宗教的な忌避があるかどうかをチェックしましょう。例えば、偶像崇拝を禁じているイスラム教諸国の賓客に、偶像を連想させるようなフィギュアの置物を贈ることは、避けるほうが無難といわれます。

次に、公職に就いている者が一定額を越える金額の贈り物を受け取ることができない、という規則を設けている国があります。たとえば米国では、公職者は

贈り物の価格が一定額を越えている場合には、公職者は儀礼としてはいったん贈り物を受け取ったとしても、その後個人的に所有することを放棄しなければなりません。特に外国の政府関係者への贈り物選びに際しては、このような規則の有無を事前に知っておくと役に立ちます。

また、一般的な配慮として、旅行中のお客さまに、あまり大きな物や壊れやすい物を手渡すことは控えたほうがよいと思います。